

# 花と緑の講習会

## バラの接ぎ木



## ＜接ぎ木とは＞

「接ぎ木」とは、二つ以上の植物を人為的に合着させ、一つの植物にしてしまう、大胆な繁殖方法で、いわば夢の実現を目指す伝統的なテクニックである。接ぎ木によって出来た株は、台木・接ぎ穂ともに、ある程度成長した植物であるため、ゼロからのスタートする実生苗より明らかに成長が早く、開花・結実までにかかる年数も少なくすみます。

## ＜バラの接ぎ木＞

バラは接ぎ木で改良が重ねられ数多くの種類が誕生してきました。「バラの接ぎ木」の台木は野バラです。野バラは落葉性のツル性低木で、沖縄の除く日本各地の山野に多く自生している比較的強いバラです。

## ＜資材＞（図1）

- 赤玉土（小粒）
- 皮手袋
- 駄温鉢
- 鉢底ネット
- 接ぎロウ
- ラベル
- 切り出しナイフ
- 剪定はさみ
- 接着剤
- 接ぎ木テープ



（図1）

### ○切り出しナイフ（図2）

ハサミとは違い切り口が綺麗に切れる。

※危険な為、取り扱いには細心の注意を行う。

### ○剪定はさみ（図2）

樹木剪定用はさみ。

○皮手袋（図2）

バラにはとげがあるので、保護用として使います。

※ナイフ等の鋭利な刃物を使用する場合には必ず着用する。



（図2）

○ラベル（図3）

接ぎ木した日・穂木の名前等を記入、その他必要な事柄を記入する。

○接着剤（図3）

接ぎ木テープの最終を止めるため。

※無ければ、接ぎ木箇所が動かないようにしっかり固定下さい。

○接ぎ木テープ（図3）

台木と穂木とを接ぎ合わせた部分を、離れたりずれたりしないように固定するため。



（図3）

○接ぎロウ（図4）

接合部分をロウで覆い、水分の蒸発による乾燥を防止するため。

※菌の侵入を防ぐ役目もしている。

※沸点は約55℃：わりと早く解ける。「蒸散抑制剤」「保護剤」の効果がある。



（図4）

○赤玉土（小粒）（図5）

通気性・保水性・適度な硬さの土。（※パーライト＋川砂でもOK）

※台木の大きさによって中粒を使用する。

※大粒・中粒・小粒がある。また、普通の赤玉土と硬質赤玉土がある。

○駄温鉢（図5）

通気性・保水性・保温性が共に良い。

※他にプラスチック鉢・化粧鉢などがあるが、通気性が悪い。

○鉢底ネット（図5）

鉢底石や土が流れ落ちるのを防ぐ。

※ナメクジなどの進入を防ぐ。



（図5）

## ＜台 木＞（図6）

○軸が真っ直ぐなものを選ぶ

※根にこぶ（ガン）などがある場合、その根は使用しない。



（図6）

## ＜穂木 1＞（図7）

○出来るだけ充実した枝を選ぶ

※2～3番目の枝（春花後枝を切った後、伸びてきた枝を2番枝と言います。）



（図7）



## <穂木 2> (図8・図9)

○充実した枝を選ぶ

※鉛筆の太さくらいの枝を選ぶ。

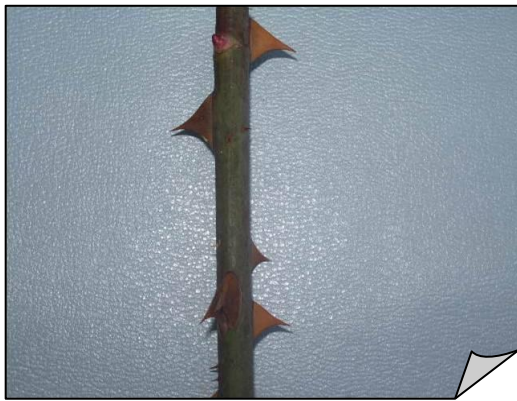
○トゲを切り落とす

作業の邪魔になるので切り落とす。

※トゲで他の穂木を傷めたり、バラの芽を傷つけないように注意してください。

○上下はわかるようにしておく。

※反対に接ぐと絶対に付かないので注意が必要です。



(図8)



(図9)

## <台木の処理>

○長さ調整 (図10)

余計な枝などは切り、軸が長すぎないようにバランスよく切る。



(図10)

- 軸が真っ直ぐなところで切る（図1 1）  
※切断部は水平に剪定ハサミを使って切る。



（図1 1）

- 根の整理（図1 2）  
台木の根を根の付け根から一握りぐらいの長さを残して切る。



（図1 2）

## ＜台木の縁を切る＞

○接ぐ所の軸を約 2mm 切り落とす。(図13・図14・図15)

※作業時、手には十分注意する。

※斜めに切っているので、形成層が広く見えて作業がしやすい。



(図13)



(図14)



(図15)



### <台木に切り込みを入れる>

○緑を切り込みした所を縦に切り込む。(図16)

穂木が付きやすいように真っ直ぐ切り込む。

○切り込みの長さは概ね 2cm くらい。(図17)

あまり長く切り込むと、接いだ時に隙間が出来るので注意してください。



(図16)



(図17)

### <穂木の処理>

○芽のある反対側の皮を 2cm くらい形成層が出る程度剥ぎます。(図18)

台木の切り込みと合わすために、同じ長さで剥ぐ。

○剥いだ反対側を 45 度の角度で切り、尖らせます。(図19)

出来るだけ台木と穂木との隙間が無いようにするため。



(図18)



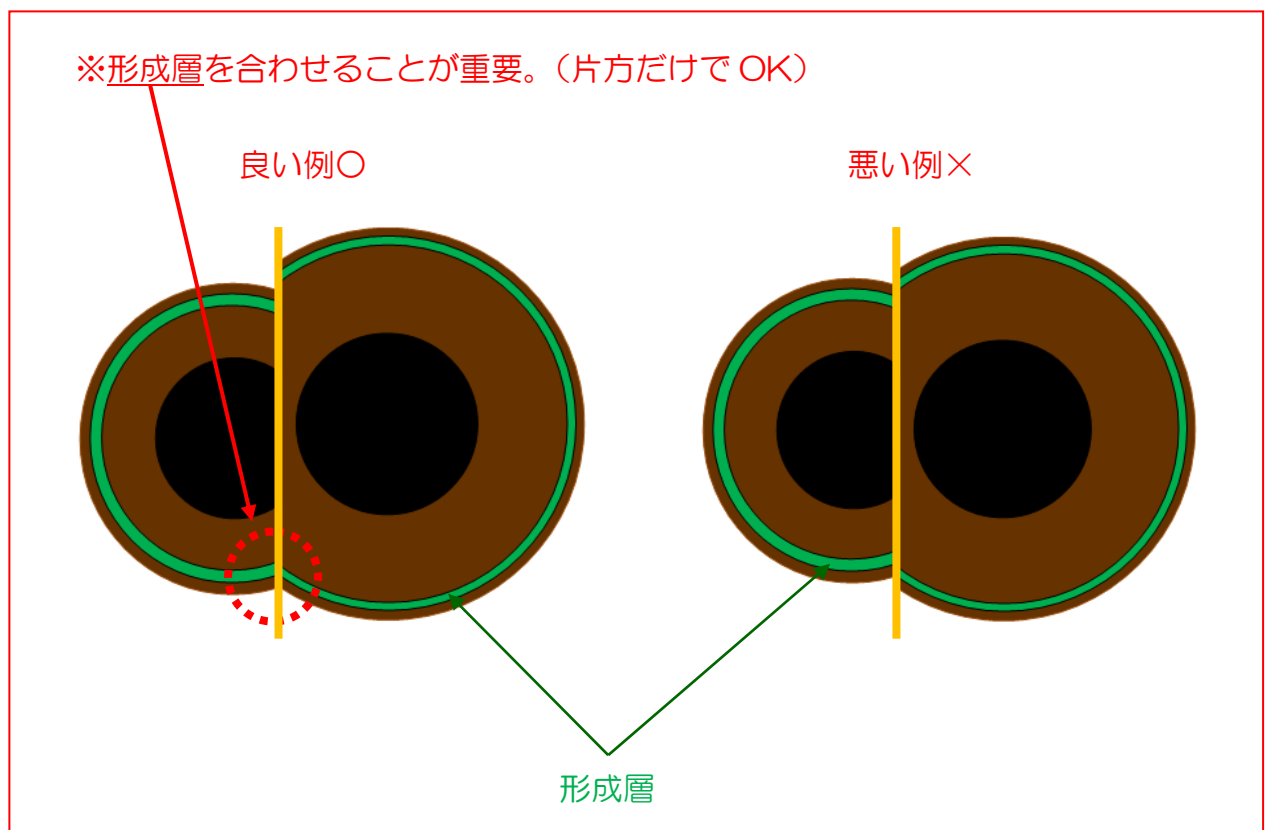
(図19)

## ＜穂木を台木に接ぐ＞（図20）

- 台木と穂木の形成層がひつつく様に穂木を挟みます。  
この時、台木と穂木の形成層がしっかり付くようにする。  
※隙間が無いように差し込みます。



（図20）



### <接ぎ木テープで固定>

○接ぎ木テープで固定し、テープの最後は接着剤で止めます。(図21)

離れたりずれたりしないようにしっかり固定する。

○接ぎロウに漬ける。(図22)

先から接いだ所(テープを巻いた所)まで漬ける。根は絶対に漬けない。

※根を接ぎろうに漬けてしまうと根から養分が吸収されなくなってしまいます。



(図21)



(図22)

### <植え付け>

○赤玉土 100%で植え付け。(図23)

鉢底ネットをひいて、荒い用土なのでゴロ石はいらない。

○必ずラベルに名前を書いて付ける。(図24)

これは、絶対に忘れてはいけません。

○十分に灌水する。

鉢の端に棒を立ててから、鉢底から水が透き通るまで、十分に灌水をしてください。

※鉢の中の空気をきれいに通すため灌水はしっかり行う。



(図23)



(図24)

### <ナイロンを被せて終了> (図25)

○乾燥を防ぐためナイロンに被せます。

※蒸散作用により乾燥を防ぐことができる。

○置き場所

涼しくて温度変化の少ない日陰(5~10度くらい)

寒くなると根の活動が止まります。また、逆に暑すぎても止まります。

○約1ヶ月後、芽が伸び始めたら徐々に日に当て、ナイロンを開けて外気に慣らせていく。

※この時点で穂木が黒くなっていたり、しわしわになっていたら失敗です。

○芽がふくらんで葉が出てきたらナイロンをはずして外気に慣らす。

※灌水も怠らないように注意する。

※活着するまでは高温多湿が条件でしたが、葉が開く頃高温多湿状態になると葉先にカビが生えたり、根元が腐る病気（ボトリチス病：別名灰色カビ病）になりやすくなる。



(図25)